

## **恵みの良い管理者として**

ペテロの手紙第一 4章 7-11節

### **はじめに**

私たちの教会は、月ごとのテーマを決めています。7月は「デボーション」、8月は「礼拝」でした。9月は「奉仕」となります。どのテーマも信仰生活の基本となるものですから、月に一回はこのテーマに従って説教をすることにしています。ちなみに10月は「伝道」、11月は「献金」、12月は「社会生活」となります。このような信仰生活の基本となる六つのテーマを、年に二回ずつ学んでいこうと考えています。

今日は「奉仕」について学びますが、10節には、「**それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい**」とあります。

### **1. 人間の本来的使命は、神様が造られた世界を管理すること**

聖書によれば、私たち人間は皆、「管理者」です。神様は、私たち人間を造られた時、こう言われました。「**さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう**」(創世記 1:26)。

神様は、私たち人間を「神様のかたち」に造られました。それは、神様が造られたすべてのものを、私たち人間が神様に代わって管理するためでもあります。私たちすべての人間は、神様からこの世界を管理する責任を与えられているのです。そのために私たちは、仕事をし、家庭を形成していくのです。

しかし、管理するというのは決して、現状維持というものではありません。私たちは、神様が造られた世界のあらゆる資源を活用して、技術を磨き、発展させていくのです。これが、私たち人間に与えられた本来的使命なのです。

### **2. イエス様の「タラントのたとえ」**

イエス様は、私たちが「管理者」であることを教えるために、「タラントのたとえ」を放されました。主人が旅に出るにあたり、三人のしもべたちに財産を預けていきました。ある人は五タラント、ある人には二タラント、ある人には一タラントを預けていきました。

五タラント任されたしもべは、主人に感謝してその五タラントを資金にして商売をし、さらに五タラント儲けました。二タラント任されたしもべも、主人に感謝してその二タラントを資金にして商売をし、さらに二タラント儲けました。しかし一タラント任されたしもべは、

失敗して主人に怒られることを恐れて、その一タラントを地面の中に隠しておいたのです。

主人が帰って来た時、それぞれのしもべは報告しました。五タラント任されたしもべと二タラント任されたしもべは、「よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう」と褒められ、さらに多くの物を任されるようになりました。しかし一タラント任されたしもべは、「悪い、怠け者のしもべだ」と怒られ、持っていたタラントも取り上げられてしまいます。

### 3. 私たちが神様から任されているもの

私たち人間はそれぞれ、神様から（イエス様から）あらゆるものを任されています。ある人には多く、ある人には少なく任されています。しかし私たち人間は皆、死を迎える時、またイエス様が再び来られる時に、任されていたものをどのように管理したかをイエス様に問われます。そしてその管理に忠実であったか、怠惰であったかに応じて、報いを与えられるのです。

#### (1) 生命、身体

私たちは一体、神様から何を任されているのでしょうか？まず一つは、「生命」です。私たちは、自分の生命の管理を任されています。「身体」と言っても良いかもしれません。私たちは皆、同じような身体を任されたわけではありません。ある人は健康な身体を、ある人は病弱な身体を、ある人は障がいを持った身体を任されます。しかし大切なことは、この身体を与えられたことを神様に感謝して、その身体にふさわしく管理することです。適切な食事を摂り、十分に睡眠をとり、適度な運動をします。私たちの身体は、自分のものではありません。特に私たちクリスチャンの身体は、イエス様の命という代価を払って買い取られた聖霊の宮です。ですから私たちは、性的な意味でも自分の身体を清く保たなければなりません。

#### (2) 時間

二つ目に、私たちは「時間」を神様から任されています。時間は無限にあるものではありません。自分の死を迎える時も、イエス様が再び来られる時も、日々、着実に近づいています。その意味で、私たちが管理できる時間も、日々、短くなっています。残された時間を、私たちは何のために使うか、賢く考えなければなりません。

神様は、「時間」についてこのように言われました。「**安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。七日目は、あなたの神、主の安息である**」(出エジプト記 20:8-10)。神様は、私たちの時間の「七分の一」は、神様に献げるようにと言われます。私たちは、死を迎える時、イエス様が再び来られる時に、私たちの時間の「七分の一」を忠実に献げてきたかが問われるのです。

では安息日を神様に献げていれば、それで良いかということそうではありません。私たちは皆、六日間働くことが求められているのです。「働く」ということは、職業を持つというこ

とではありません。私たちは、無職でも働くことが求められているのです。主婦にとって「家事」が働くことでしょうし、子どもにとって「勉強し、遊ぶこと」が働くことでしょう。私たちは、職業がなくても、神様のために何か働くことが求められているのです。私たちはどんなに年をとっても、生涯の最後まで神様のために働くことが求められているのです。「祈ること」は、どんなに年をとっても、どんなに病気になっても、どんなに身体が動かなくなっても、最後まで神様のためにできる働きの一つだと思います。

### (3)財産

三つ目に、私たちは「財産」を神様から任されています。財産もまた、皆が同じように任されているわけではありません。ある人は多くの財産を任せ、ある人は少なく任されています。しかしイエス様は言われました。「**多く与えられたものはみな、多くを求められ、多く任された者は、さらに多くを要求されます**」(ルカ 12:48)。確かに貧富の差は、不公平のように見えますが、多くの財産の管理を任せられた人には、それだけ多くの役割と責任が伴うのです。

神様は旧約時代、財産の十分の一を神様に献げるように求められました。ある人は言うでしょう。十分の一の規定は、旧約時代のものだから新約時代に生きる私たちには求められていない、献金はあくまでも自由だからできる範囲で良いのだ……。しかし本当にそうでしょうか？新約時代は、イエス様の十字架と復活によって、神様の恵みが旧約時代よりもより豊かに現わされました。ですから、神様の恵みに対する私たちの感謝の応答も、より豊かに表すべきです。旧約時代に十分の一であったなら、新約時代には十分の一以下でよいはずがありません。いや十分の一以上であるべきです。確かに十分の一は律法ではないかもしれませんが、しかし、イエス様を通して示された神様の恵みを本当に経験している人は、決して十分の一以下で良いなどとは言えないはずで、十分の一による献げ物は、律法の問題ではなく、私たちの信仰の問題なのです。

### (4)賜物、才能

四つ目に、私たちは「賜物」を神様から任されています。「才能」と言っても良いかもしれません。今日の聖書箇所にも、「それぞれが賜物を受けているのですから」とあります。私たちは皆、神様から何かの賜物(才能)を与えられているのです。賜物(才能)を与えられていないという人は、一人もいないのです。

では、私たちには何のために賜物(才能)が与えられているのでしょうか？それは、「その賜物を用いて互いに仕え合うため」です。賜物(才能)は、自分のために与えられているのではなく、誰かを助けるため、誰かの益となるために与えられているのです。私たちの賜物(才能)は、自分のために使うときではなく、誰かの益となるために使う時に、最も輝くのです。

すべての人が賜物(才能)を与えられているのですから、すべての人が教会で何らかの奉仕をすべきです。教会員すべてが賜物を用いて奉仕してこそ、教会は建て上げられるのです。

与えられた賜物（才能）を決して、土の中に埋めてはいけません。私たちは、神様のために十分に活用しなければなりません。

一タラント任されたしもべは、失敗を恐れて現状維持をしました。減らしも増やしもせずに現状維持をするしもべを、イエス様は「悪い、怠け者のしもべだ」と言われて、タラントを取り上げてしまわれたのです。

私たちは、リスクを恐れて現状維持ではいけません。五タラント任されたしもべも、二タラント任されたしもべも、失敗するリスクを恐れずに、任されたタラントを思い切って活用したからこそ、結果的にそれが倍に増えたのです。

私たちは、最初は何事もうまくできないかもしれません。しかし思い切って賜物を活用してみることで、それがより豊かに磨きがかかり、その賜物が倍になっていくのです。

今日の聖書箇所、「**神が備えてくださる力によって、ふさわしく奉仕しなさい**」とあります。私たちが何かの奉仕をする時、神様が力を備えてくださるのです。そのことを信じるのが大切なのです。失敗を恐れて、上手にできない、時間がないなど、理由は色々あると思いますが、奉仕に関しては、神様が力を備えてくださるのです。そのことを信じて、自分に与えられた賜物（才能）を神様に献げていくことが大切なのです。

## **おわりに**

私たち人間は皆、「管理者」です。神様は、私たちそれぞれに命、時間、財産、賜物（才能）などを与えてくださり、その管理を私たちそれぞれに任せてくださっています。私たちは最終的に、それらをどのように管理したかをイエス様から問われることとなります。そしてそれに応じた報いを与えられるのです。

私たちは、自分の人生を振り返って、自分は「管理者」として、イエス様の前に忠実であったでしょうか？もし悔い改めることがあるならば、今日、この場で悔い改めましょう。

私たちは、神様から管理を任されているものを、神様のために十分に活用する必要があります。特に誰かの益のために、誰かに仕えるために活用する必要があります。そして神様に献げるべきものは献げる必要があります。

最後に、ダビデが語った言葉を読んで終わります。「**このように自ら進んで献げる力をもっているとしても、私は何者なのでしょう。私の民は何者なのでしょう。すべてはあなたから出たのであり、私たちは御手から出たものをあなたに献げたにすぎません**」(Ⅰ歴代誌 29:14)。

天にいます私たちの父なる神様。

あなたは世界の創造者であり、世界のすべてのものはあなたのものです。私たちの命も時間も財産も賜物も、すべてあなたから与えられたものです。私たちは、それらの管理者に過ぎません。私たちはやがてあなたの御前に、それらをどのように管理したかを報告しなければなりません。私たちはあなたの御前に、決して忠実でなかったことを悔い改めます。どうかキリストにあって赦してください。

どうかあなたの恵みに応えて、それらを賢く管理してくことができるように知恵を与えてください。そしてあなたに献げる信仰を、あなたが備えてくださる力を信じる信仰をお与えください。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。